

(別添 3)

【沖縄県渡嘉敷村】

校務 DX 計画

「GIGA スクール構想の下での公務の DX 化チェックリスト」34 項目において、本村の主な課題として、教職員に求める資料が紙であることが多いこと、保護者への連絡手段の効率化、一部に押印・署名によって確認をする習慣や書類が依然として残っていること、教育データをアクセス権限によって管理する習慣が無いことがあげられる。

これらの課題を解決するために、以下の解決策に取り組む。

1. 教職員が提出する書類を、クラウドツールを活用しペーパーレス化、デジタル化すること

本村では村立学校職員全員に校務用の個人メールアドレスが付与されており、情報共有や連絡等にクラウドツールが活用できる環境にある。現在教職員間の情報共有はクラウドツールの利用が一般的となっているが、会議資料や研修資料を慣例で印刷配布するケースや、クラウドツール利用で提出できる書類を印刷物で求めているケースが散見される。一層のクラウドツール活用を推進する。

2. 学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスにて一斉配信すること 令和 7 年度から各種連絡をクラウド化することで公務の効率化を推進する。

クラウドツール等を導入して各種文書、関係機関からの通知等を一斉配信することにより、保護者はスマートフォン等の端末で読むことができ、連絡物の紛失、渡し忘れもなくなる。印刷は配布等のコスト削減も期待できる。

3. FAX・押印等の制度・慣行の見直し

令和 6 年 8 月 9 日付け文部科学省事務連絡「学校等の FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を徹底し、クラウドツールを活用することによって校務の DX 化を推進する。

4. クラウドに教育データをおき、アクセス制限によって管理体制を整えること

次世代の校務 DX 環境構築に向け「ゼロトラストの考えに基づき、アクセス制限を前提としたネットワークへの移行」が求められている。

使用者別に管理職のみアクセスできるデータ、教職員のみアクセスできるデータ、児童生徒と教職員がアクセスできるデータ等、クラウド上のデータにアクセス制限を設け管理する体制を推進する。

また、情報を安全に扱うため、渡嘉敷村情報セキュリティポリシーにより必要なセキュリティ対策を講じていく。今後、渡嘉敷村情報セキュリティポリシーの周知をさらに図るとともに、国の方向性や現状を的確に把握しながら、随時改正を行っていく予定である。